

工場の基本機能

活用対象者別の重要度		
着工中	検討中	改善中
○	○	○

これまでの工場の基本機能

これまでの工場には何が求められていたのか。たとえば、次のようなスローガンを掲げて生産活動を行っている工場が多いのではないだろうか。

こんな工場を目指そう

- ・安全、ゼロ災工場
- ・品質の高いモノづくりができる工場
- ・生産性の高い高効率工場
- ・納期を守る工場
- ・改善活動が活発な工場
- ・できる限りお客様の要望する仕様、品質、納期、価格に応えられる工場

日本の工場は、大量生産時代から多様化が進み、多品種生産へのシフトを余儀なくされた。それでも、多品種対応は、「技術大国ならでは」「当社ならでは」の強みととらえ、高い品質、高い生産性、そして高い利益率を目指すことをミッションとしている企業が多い。

しかしながら、第1章で述べたように、日本の製造業を取り巻く環境は、大変厳しくなっている。ゆえに今後は、これまで目指してきた工場のあり方に加え、これから起こるさらなる環境の変化に耐えうる工場を目指さなければならない。

高効率高品質だけでは不十分

(1) 今以上の安全・安心・働きやすさ

基本的なところでは、従業員を選んで採用する時代から、自社を選んでもらい、働いてもらう時代になっていく。高齢者、女性、外国人、短時間パート、曜日限定パートなど、今以上に働き方、

体力、考え方の異なるさまざまな人で、生産活動を行っていく必要が出てくる。いろいろな人が働く職場となるために、今よりさらに、安全・安心に働ける工場にする必要がある。

(2) 「効率的な技能習得」を可能にする

また、これまでの熟練者の勘と経験に頼ったモノづくり、あるいは時間をかけて技能を習得するモノづくりから、生産性向上のために、誰でも早期に一定レベルの技能を習得できるようにするための対策が必要となる。作業手順をわかりやすく説明する動画マニュアルなどの教育ツールの導入や、多能工化を計画的に進めるカリキュラムの体系化、技能教育訓練場所の整備などが必要といえる(図1)。

(3) マネジメントの効率化

作業者だけでなくマネジメント人材の不足にも備え、生産管理・品質管理をはじめ、さまざまな管理を効率的にこなすためのシステム化、AI化などを進めることも必要だ。少数のマネジメント人材で、離れた場所からでもこれまで以上に迅速かつ的確な指示・判断ができるよう、カメラ、モニタ、ICタグなども整備していきたい。

(4) 働きがいある職場へ

製造業の管理職の方々と話をすると、「良い人材、やる気のある人から辞めていく」といったことをよく耳にする。貴重な人材を失わないためには、年功序列の人事評価から、海外諸国と同様の能力評価をきちんとしていくことも必要だ。そしてさらに、従業員が「やりがい」を持てる職場環境を、今以上に整備していくことである。休憩室、食堂、学習室などの整備に加え、有給の取りやすさなどにも配慮した職場づくりが必要だ。図2に、次世代の工場がどう変わっていくのか、ポイントとなるトピックをまとめた。

図1 動画作業マニュアル例



図2 「これまでの工場」と「次世代の工場」

